- B21** インドネシア、セラム島とフローレス島で採集した2未記録種の蚊、*Culex* (*Acallyntrum*) sp. と *Topomyia* (*Suaymyia*) sp. について
宮城一郎^{○1)}、當間孝子¹⁾、茂木幹義²⁾、砂原俊彦²⁾、Makmur S.³⁾
(¹⁾ 琉大・医・保、²⁾ 佐賀医大、³⁾ ハサヌディン大学)

Two undescribed species of *Culex* (*Acallyntrum*) sp. and *Topomyia* (*Suaymyia*) sp. from Seram and Flores Is., Indonesia.

Miyagi I., Toma T., Mogi M., Sunahara T. and Makmur S.

1996年及び1997年度文部省科学研究費補助金（国際学術研究）“インドネシアにおける水田開発に伴う衛生動物変遷過程の研究（研究代表者：茂木幹義）”の一環として行われた蚊相の調査研究でセラム島とフローレス島で採集された標本を検索中、新種と思われる2未記録種を発見した。*Culex* (*Acallyntrum*) sp. : *Acallyntrum* 亜属は現在7種がいずれもソロモン諸島とニューギニアから記録されている。幼虫は主に植物の葉腋(leaf axil)の水溜りに生息する。今回採集した幼虫はマルク諸島のセラム島の森林内に自生するしょうがの一種(*Zingiber* sp.)の包葉(bract)の溜まりに発生していた。幼虫の剛毛の発達が悪く、概して太くて短く、棍棒状を呈し、特に第Ⅷ節の1,3,5毛や呼吸管毛で特殊化が著しい。これらの剛毛は上部から下部の包葉へ移動するのに適応しているものと思われる。

Topomyia (*Suaymyia*) sp. : 本亜属は東南アジア、中国（雲南）、日本から記録されている18種からなる。スンダー列島からは本亜属の種はこれまでに記録がない。細い（直径2-3 cm）生（青）竹の切り株に限って発生が見られた。幼虫は捕食性で他の幼虫との混生は見られなかった。雄の性生殖器の形態が既知種と著しく異なり、新種と思われる。これら2種類の生息場所や形態について述べる。

- B22** 小型の発生源で見出されたヤブカ属の蚊
栗原 毅[○]・小林睦生（感染研昆虫医科学）

The immature *Aedes* mosquitoes found in container habitats in Japan
KURIHARA, Takeshi & KOBAYASHI, Mutsuo

デング熱などの蚊媒介性疾患の再興の可能性を考慮して、小型容器などに発生するヤブカ属の蚊の分布調整を行った。(1) 東北地方での1997年8-10月の調査では、福島県福島、いわき、原町、相馬の各市、会津地方の郡山、会津若松、喜多方各市ではヒストジシマカが主な発生蚊種であることを確認した。しかし同県会津郡田島町、只見町、南郷村、藤原村および岩手県の北上、水上、一関ではヤマトヤブカ、アカイエカなどが主な発生種でヒトスジシマカは見出されなかった。(2) 同年11月の沖縄県八重山郡石垣島および西表島の調査では、ヒトスジシマカは人工容器や石の窪み、竹の切り株での主発生蚊であったが、樹洞や、タロの葉腋には著しく少ない本種に代わって *Ae. riversi*, *Ae. flavopictus miyarai*, *Ae. aureostriatus taiwanus* の発生が見られた。なお今回は全調査を通じてネッタイシマカ *Ae. aegypti* を見出すことはできなかった。